【随　筆】

今年のタンチョウのバンディング奮戦記

住　吉　　尚
（釧路支部）

こんな牧草地脇の藪を探します

今年のタンチョウバンディングは６月17日から始まりました。これは例年より１週間早い始まりです。その理由は７月に道央圏でのバンディングが予定されているため、例年より少し長い期間のバンディングが必要と思われたためです。でも私の心配は「ヒナがまだ小さいのでは」と言うことです。これは私だけの心配で、理由は後から出てきます。最初は何時ものように十勝からでした。初日はまず一番遠いと思われる新得町まで行きました。朝６時半出発です。途中までは高速に乗って、集合場所までは２時間強でしょうか。家まで迎えに来てもらい、私はただ車に乗っていれば良いのですから楽ちんです。さて集合場所で参加者全員に作戦を説明してから、車を数台に減らして出発です。ターゲットがいるはずの場所は、釧路・根室のタンチョウを見慣れた我々には箱庭みたいな環境ですが、本日はそこにターゲットの家族が見当たりません。牧草地の向こうに見える丘の斜面は林が続いています。この林の奥の台地上にも牧草地があって、そちらにいることもあるとか。と言うことで、２班に分かれて台地上の牧草地を挟む作戦です。林を抜けて牧草地に着いてみると、我々からは300～400ｍは離れているでしょうか。ターゲットの家族が見えました。でもさらに奥にある森の縁にいるように見えます。何とか牧草地の中央にまで移動してもらって捕まえようと、奥の森に両側から人を入れて追い出そうとしたのですが、奥に入った隊員との連絡がなぜか上手くいきません。そうこうしている間に、親鳥が道路側に移動したので車は突入です。すると道路脇の背の低いササとワラビの藪から、親鳥２羽が飛び立つのが見えましたがヒナは見えません。多分親鳥が飛び立ったあたりの藪に座っていると見当をつけ、隊員７名を横１列に並べて捜索を始めると、やはり「このあたり」と見当を付けたあたりで「ヒナ発見、捕獲！」とコールがあり、本日の１羽目です。でもこのヒナは私が恐れていた通りに体重２kg台の小さなヒナです。これは前にも触れたように捕獲隊の中で私だけの問題です。足輪を付け、計測が終わると私の出番。そうです、採血するのです。でも３kgに満たないヒナは未だ成羽と言って普通に見る鳥の羽根が出ていません。ヒヨコに見られるような綿羽と呼ばれる綿毛に覆われています。こんなヒナは翼下静脈が未だ大変細く、この細い血管からの採血は大変難しいのです。１m*l*は欲しいのですが、やっと0.５m*l*採ったところで暴れて採血は中止。それでも何とかDNAの解析には間に合うかな？と言うことで全ての作業が終わり、ヒナを牧草地に放しました。この日は雨が時々降って日が差さず、十勝にしては気温が低い日でしたが、我々にはそれが幸いしました。胴付き長靴を履き、長そでの服に手袋と完全武装しての藪漕ぎは、気温が高いと汗だくになって大変なのです。天気は悪かったものの午前中に１羽を掴み全員ホッとして、昼食休憩です。捕獲初参加の隊員も含めて皆が、ヒナを捕まえバンディングができて笑顔で昼食を食べました。午後は十勝川の両岸を２班で下りながらの捜索をしました。でも集合場所の池田駅までの間にヒナを連れたタンチョウの家族は見つけられず、１日目は終了となりました。

２日目も十勝です。今度は豊頃町の十勝川大橋から下流側を探しましたが、なかなか手ごろサイズのヒナがいる家族が見当たりません。それで事前調査で確認ができている、十勝川河口橋に近い浦幌町へ。予定していた堆肥山には家族は見あたりません。次行こうか！と言った時です。遠くの採草地の縁に白い点が。私が「あれ、タンチョウ！」と言うと同乗していた若者が双眼鏡で「確かにタンチョウ、ヒナもいる！」早速無線で連絡です。「ヒナ発見！」全員が集まったところで各自の持ち場を決め、捕獲作戦開始です。私は最初からヒナを見ているので、そのままヒナを見ながら指令を出す係です。このタンチョウの親鳥は、追いだし隊の姿を見るや否や、２

羽ともにあっという間に走って逃げだしました。仕方なく、と言う感じでしたがヒナを最後に見た場所付近を捜索しました。「ここが怪しい」と思われた水路の角の草藪は私も調べたのですが、見つけられずにいると、「捕獲！」の声。振り返るとやはりその場所にヒナがいたのです。ヒナは雨に濡れて震えていました。そして私が心配した通りに、この小さなヒナの翼下静脈は細く、しかもほとんど血流がありません。血管を押さえもやはり血管内に血液がたまりません。こんなことでの採血断念は初めてのことです。

小さな翼からの採血は難しい

このぐらい正羽が伸びていれば採血も楽です

今日は厚床駅集合で姉別から厚床周辺でタンチョウを探しましたが見つかりません。それでは！と大きく移動して風蓮湖畔に。今日は大潮、しかも最干潮が12時近く。でも湖の中は外洋から１時間は遅れて来るので１時過ぎて２時頃になるでしょう。11時半近くなっていたので、まずはタンチョウの様子見をしました。でもここのタンチョウも姿が見えません。それでも今日はここのタンチョウに賭けることにしたので、まずは我々の腹ごしらえです。ゆっくり昼食をとって、いざ出発です。動き始めて直ぐです。ヨシ原の中で動くタンチョウの頭が。「いた！」しばらく様子を見ていると、やはり干潟に出て餌探しをしようとしているようでした。ゆっくりですが深いヨシ原から草原へ。そして干潟へと移動していきます。十分背丈が低い草原に出た所で、戻れないように追い出し隊が展開します。我々の展開がまだ十分でないところで、親鳥に気付かれ、親は２羽とも飛んで逃げます。ヒナの姿はありません。でも最後にヒナを見たあたりまで横一列に並んで、座っているかもしれないヒナを探しながら進みます。するとやはり「そのあたり」と見当をつけたあたりからヒナが飛び出し、干潟へと一直線に走りだしました。干潟の上ですからもう見失うことはありません。ヒナの位置から充分に沖側に人を配置して、あとはゆっくり砂丘の草原に追い上げようという作戦です。でも思ったようには動いてくれません。タンチョウのヒナは何の苦労もなくトコトコと干潟を歩き回りますが、私たちは１歩１歩足が泥に埋まりますから、走ることはできません。砂丘の草原への追い出しはできないようなので、仕方なく干潟の真ん中でヒナを囲うことに。泥に足をとられながら、形ばかりはヒナを囲いました。するとこのヒナは私の方へと来るではありませんか。捕獲隊で最年長の私と２番目の捕獲隊長の間が一番手薄だと見たのでしょう。まずは私の前へ。動きもままならない私を相手に左右にフェイントをかけながら横をすり抜けようとします。ヒナの目は「絶対ここをすり抜けてやる！」と言う決意に満ちています。右左に動いた末に隣の捕獲隊長の方へ。こちらは歳はとっても百戦錬磨のつわものです。やっとのことでしたが、捕獲成功です。このヒナに足輪を付け今日の捕獲作業は終了としました。なぜ？ですって。干潟を駆け回ったので、全員膝がガクガクに

このヒナに見くびられました

なるほど疲れ切ったので、さらに作戦に出るだけの体力が残ってなかったのです。それにしても生後２カ月ほどしか経っていないタンチョウのヒナが、一番体力はなさそうな人を見分けて向かって来るのですから、野生動物の勘と言うものはすごいものがあると感心しました。こうして根室管内では干潟でやっと１羽を捕獲し足環を付けて放しました。でも他にタンチョウのヒナを見たという情報がありません。十勝管内では４回もの遠征を行いましたが、４日の日曜日にはついに１羽のヒナも発見することができずに帰って来ました。一方で、釧路管内では「こんなに順調に掴んで良いの！」と言うほど順調に捕獲数を伸ばしています。

さて、タンチョウの捕獲チームでは２回目となる道央圏遠征をしたのは７月８日のことです。８日６：30出発で11：00には現地到着。打ち合わせをしてから昼食を摂り、さて捕獲作業を！となりましたが、簡単ではありませんでした。この場所にはタンチョウの他にチュウヒが住んでいて、こちらも子育て中でした。チュウヒと言う鳥はトビに比べると一回り小さく、スマートな感じがするタカです。この鳥の特徴は湿原のヨシ原の地面に巣を作り子育てをするという風変わりなタカです。釧路湿原など箱庭にしか見えない大陸の大湿原に進出するには、立木がないので地面で子育てをするしかなかったのでしょう。こうして進化したタカなのですが、ごく少数ですが日本の湿原でも繁殖をする個体が出てきています。日本の湿原ならどこかに立木があるでしょうが、地面で繁殖するよう進化したタカは簡単にその生き方を変えられません。そういう訳で日本での繁殖個体数はタンチョウよりずっと少ないので、チュウヒを守ろうとしている人たちもいるのです。このチュウヒが大空から見て、ここが一番安全そう！とにらんだ場所に巣を構えたのでしょう。一方のタンチョウも変な人間が現れたので一番安全そうな場所に避難します。当然でしょうがこれがほとんど同じ場所なのです。タンチョウをそこから追い出すにはチュウヒの巣の近くに行かなければなりません。夕方まで観察していましたがタンチョウは動かず捕獲作業も行われませんでした。そして翌日も状況は変わらず捕獲作業はなし！と言うことで解散となりました。ここでもうひとつ痛感したのは、釧路・根室の住人と違って、たったひとつがいのタンチョウしかいないのですから、地域住人がそのタンチョウに込める思いは大変なものがあります。まさに腫れ物に触るような扱いでした。それでも１回目に足輪を付けたタンチョウが道央圏を広く利用していたことが判って、しかも長沼町でしょうか？人工の遊水地で繁殖をしていることまで判ったので大変喜んでいて、今回も足輪が付けば行動が判ってくるので大変な興味を持ってくれていただけに残念な結果となりました。

我々の行動を阻んだチュウヒ

さて、帰りは襟裳岬を回ってあちこちタンチョウの観察記録がある場所を巡りながら帰って来ました。でもこの時期に変わった場所でタンチョウは全く見えず、毎年捕獲作業をしている十勝東部に来てやっと見られましたが、ヒナ連れは観察できませんでした。金土とお休み。日曜日には釣りに出かけてみましたが、釣果はカレイ１匹だけ。火曜日は標茶町内のタンチョウを観察しに行きましたが、16：30からコロナワクチン接種の予約が入っています。１回目は国際交流センターでしたが、２回目は日赤病院です。国際交流センターに比べると少し待ち時間が長いようでしたが、とてもスムーズに接種を終えることができました。２回目は副反応が強く出ると言われて、夜中に肩の痛みに目が覚めました。でも特に体調に特段の変化は出ませんでした。

さて翌日はまたまたタンチョウの捕獲作業です。今日は風蓮湖で２戦する予定。暑いので、600 m*l*の水を３本持って出かけました。最初の目的地は槍昔です。私たちの班は、ハンノキ林を抜けヨシ原を越えて湖畔の水際まで。こうしてやっと水際まで来たのですが、ヒナには深いヨシ原に逃げ込まれ万事休す。ヒナの捕獲に失敗して帰る時は往きの何倍も足が重く、トンボリトンボリ、皆から遅れて帰りました。さて昼食後は湖畔の別の場所です。こちらは川と丘の間のヨシ原の中でしたが、上手く囲うことができずに逃げられました。最後は若者たちに「大丈夫ですか！」と言われて、遅れる私に付き添ってくれるほど、足が重たい一日でした。これはコロナワクチン接種３日目の影響もあったかもしれませんね。

そして一日置いて土曜日でした。今度は標茶町内です。今日は30℃を超すという予報でしたので、600 m*l*を４本持って行くことに。さらにその上、今まで作戦時に履いていた胴付き長靴では胸まであって蒸れるので、股下までの特長靴を履くことに。こうしてこの日は暑さの中、４羽のヒナに足輪を付けることができました。そして最終日は十勝の足寄町です。朝集合したときにはすでに30℃を超えていました。今日は600 m*l*を６本持って来ました。目的地はさらに山奥、こんなところにタンチョウ？と思うような場所です。昨年は深い草藪に逃げ込まれて失敗したところです。今日は丘の下の平らなところは草刈りが終わっています。丘の上は農家。我々は水が枯れた沢を下って斜面の森を横断するような布陣。私は一番上で農家裏の深い藪の中です。親の１羽が斜面を上がって、上に私がいるのを確認して戻りました。包囲網が狭まり、親が飛んだ後です。私の横、斜面の下にいた若者から「目の前にヒナいる！」とコール。下を見ると藪の中、斜面を登り始めたヒナが目に入り、私も動きます。斜面の上はダメ、と思ったのでしょう、ヒナは元の溝の中へ。そこを若者が走って「捕獲！」大成功です。もう１カ所は見つからずに終了。この日、足寄は気温37.5℃で全国一だったとか。これで捕獲作業の全日程が終了しました。暑いー！

（俳句）
牛に水我も一服ソーダ水
（川柳）
事業名元祖「畜産クラスター」
（都々逸）
この季節　雨がジメジメ　寝床を濡らす　牛の乳房に　菌がつく
（現代漢詩）
速　度　頭数拡大酪農場　作業効率狙上昇　牛群蔓延伝染病　感染効率急上昇
（幕別町　豆作（まめさく））

（都々逸）
コロナより　五輪深刻　疫病貢献　似非の平和を　ボイコット
（現代漢詩）
裁判長殿乞聖断　夫婦別姓是違憲　夫婦別性是合憲　夫婦別生是如何　脳衰大臣　偽憂乳ぢじい
（帯広市）